

平成 30 年 9 月 3 日現在

機関番号：14301

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2013～2017

課題番号：25244015

研究課題名(和文)中国典籍日本古写本の研究

研究課題名(英文)A Study on the Ancient Japanese Manuscripts of Chinese Classical Books

研究代表者

高田 時雄(TAKATA, TOKIO)

京都大学・人文科学研究所・名誉教授

研究者番号：60150249

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 26,200,000円

研究成果の概要(和文)：日本に伝存する古写本テキストは多くが隋唐期の写本に由来するものであり、かつ敦煌吐魯番写本がほとんど断簡であるのに比べ、しばしば完帙を伝えている点において大きな意義を有する。中国学の観点から、あたら限り中国古典籍の日本古写本を洗い出し、その所在、書写年代、伝承過程、形態、景印本の有無、先行研究などについて詳細な写本学的研究を行うとともに、本古写本に関する情報を統一的に整理し、中国典籍のテキスト研究に対して日本発信の権威ある目録を提示する。

研究成果の概要(英文)：The Chinese texts of the manuscripts handed down in Japan have their origin in Sui-Tang period. It is important to point out that the Japanese old manuscripts often preserve the whole contents in comparison with the Dunhuang and Turfan fragments. An attempt is made in this project to dig up as many old manuscripts as possible of the Chinese texts and to conduct a scientific research on the dates, process of transmission, physical form, paper, presence of facsimile editions, previous works, etc. of the manuscripts. After putting the manuscripts into order, an authentic catalogue of the old Japanese manuscripts of the Chinese texts will be presented from Japan.

研究分野：敦煌学、言語史

キーワード：日本古写本 敦煌 中国古典

1. 研究開始当初の背景

約100年前に敦煌写本が発見されたとき、先ず学者の注目を集めたのはいわゆる古佚書であった。中国では早くに滅んでしまった書物が、当時の写本のすがたで出現した驚きは容易に想像される。また宋元の古槧が残り、書物としては滅んでいなくても、写本時代の古態を留め、テキストにも大きな異同のある写本が現れたことも、大きな衝撃であった。そもそも中国には版本学は存在しても、写本学といった古代の同時代テキストを扱う学問が存在していなかった。ポール・ペリオが敦煌蔵経洞で自ら選りすぐって古代の写本群を持ち帰ったのには、まさに中国学の領域に同時代写本に基づく新しい研究領域を開拓しようとする極めて野心的な意図が込められていたのである。

日本国内でも、江戸末期に狩谷掖齋たち考証学派を中心に日本古写本に対する興味が次第に高まりつつあった。やはり古いテキストを保存している点が注目されたのである。かれらの研究の集大成である『経籍訪古志』には、その時点で知られた数多くの古写本が収録されている。また幕末から明治にかけての鶴飼徹定による古経研究もこの学問動向を反映するものであった。明治末に京都に文科大学が設置されると、内藤虎次郎や狩野直喜などのいわゆる敦煌派の学者が、革命の難を避けて来日した羅振玉等と共同して、積極的に敦煌写本、日本古写本の研究を開始した。『京都帝国大学文学部景印旧鈔本』全10集(1922-1944)の刊行はその成果である。

日本・中国、さらには欧米の学者たちの努力によって、今日、敦煌写本や日本古写本が、個別の中国古典テキストを研究する際にならざるべき最重要資料であるという認識は、次第に共有されるようになってきている。事実、経・史・子・集の各方面における個別研究では、すこぶる多くの業績が発表され、中国においても、日本古写本への注目は近年、非常な高まりを見せている。巖紹盪『日藏漢籍善本書録』三大冊(2007)は、日本所蔵の中国古典籍善本目録として最新の業績で、評価も高い。そこには古写本も収録されているが、数量的に不十分であり、書誌情報も他の文献による間接的なものが多いように見受けられる。日本古写本の学術的重要性に鑑み、古写本に特化した中国典籍の総合目録の編纂は、日本の中国学界に与えられた重要な使命であるとともに、今日の研究動向を勘案すると、時宜に叶った試みと言うべきである。

2. 研究の目的

中国では印刷術が早くに発展したため、

いわゆる宋元版が最良のテキストとして尊重され、そのテキストを中心に学術が伝承されてきた。しかしながら20世紀初頭、敦煌吐魯番写本が発見されるに及んで、写本時代のテキストは宋元版とはかなり大きな相違のあることが次第に分かってきた。一方、日本に伝存する平安・鎌倉時代の古写本テキストは多くが隋唐期の写本に由来するものであり、かつ敦煌吐魯番写本がほとんど断簡であるのに比べ、しばしば完帙を伝えている点において大きな意義を有する。これまで日本古写本は、そこに付される訓点などにつき国語学等の研究材料として取り上げられることはあっても、中国典籍のテキスト研究としては必ずしも十分な配慮がなされてはこなかった。そこで本研究では、以下の3点に主眼を置き研究を進めるものとする。

一、中国学の観点から、あとう限り中国古典籍の日本古写本を洗い出し、その所在、書写年代、伝承過程、形態、景印本の有無、先行研究などについて詳細な写本学的研究を行う。

二、日本古写本と宋元版(または明版)に基づく現行テキスト及び敦煌吐魯番写本との比較研究を行う。

三、その上で日本古写本に関する情報を統一的に整理し、中国典籍のテキスト研究に対して日本発信の権威ある目録を提示する。

3. 研究の方法

まず日本古写本の所在を明らかにする必要があるが、先ず公的機関所蔵の写本に対して網羅的な調査を行う。寺社の所蔵や個人所蔵の写本は、博物館に寄託されているものも多く、先ずこれらを調査し、その他の写本についても博物館を通じ、文化庁の協力も得ながら、出来る限りの調査を行うこととする。同時に古写本の伝承過程についても詳しく調査する予定である。『群書治要』は金沢文庫本が有名であるが、それに加えて第二次大戦後、九条家本が出現したというような事例があり、数年前に『原本玉篇』写本のうち長く行方不明であった福井崇蘭館本が再発見され、またごく最近に三井文庫からこれまで知られなかった金沢文庫本『白氏文集』が二巻出現したというようなことがある。こういった最新の発見にも注意を払いたい。

また明治以降に海外へ流出した古写本も総合する必要がある。楊守敬が森立之等から譲り受け、現在台湾の故宮博物院に所蔵されるものが最大の収集であるが、中国では北京大学図書館に帰した李盛鐸旧蔵日本古写本も重要である。また欧米では、現在大英図書館やケンブリッジに所蔵されるアーネスト・サトウ(Ernest

Satow) やアストン (W.G.Aston) の旧蔵書にも古写本が含まれるほか、アメリカの議会図書館、ハーバード、プリンストン大学などにも日本古写中国典籍の所蔵がある。こういった海外の日本古写本についても是非総合したい。高田はヨーロッパ所蔵の中国文献についてやや詳しい知識を有し、ここ数年来、内外の大学(北京大学、関西大学)で研究生に対し講義を行い、欧米の図書館にも人的ネットワークを持つため、調査上の便宜は大きい。

時代的にも重なる敦煌吐魯番写本との比較は、日本古写本の学術的価値を測定する上で、重要な意味を持つ。とくに敦煌吐魯番写本及び日本古写本の両者に存在するテキストについては、その系統について詳しい比較研究を行うこととする。この課題は、本研究の参加者の多くが敦煌吐魯番学を専門とし、研究資源も豊富に準備されているため、効果的な遂行が期待される。

取り扱う典籍の範囲としては、あくまで典籍が中心であり、文書の類は扱わない。ただし『三蔵法師表啓』や『不空三蔵表制集』などは書物として扱い、これらを研究の対象とする。また経律論などのいわゆる仏典は原則として取り扱わないが、高僧伝や西域記などの「史伝部」に属する典籍はこれを含めることとする。わが寛平年間(889-898)に藤原佐世の撰述した『日本国見在書目』にもこれらの書を収録していることを考えると、この範囲は妥当なものと考えられる。

4. 研究成果

国内の古写本所蔵調査については、東京国立博物館、京都国立博物館(上野家寄託写本を含む)、九州国立博物館、宮内庁書陵部、京都大学附属図書館(清家文庫を含む)、慶應義塾大学図書館、同斯道文庫、同志社大学、石川武美記念図書館、愛知県豊田市郷土資料館(猿投神社所蔵漢籍)、秋田県中央図書館、愛知県一宮市木村家などの写本を調査し、写本学的データを収集した。

また国外に流出した写本或いは関連文献について、台湾故宮博物院、韓国東国大学校、中国湖北省博物館、旅順博物館、大連図書館、南京大学などで、調査を行った。

国内外の調査の結果得られた知見は、論文や学会発表のかたちで公刊した。論文は『敦煌寫本研究年報』ほか内外の雑誌に公刊し、下掲の雑誌論文の項目には関連度の高いものにつき27件を掲げておいた。中国各地で行われた関連する国際学会、またプリンストン大学及びロシア科学アカデミーなど欧米で開催された国際学会にも積極的に参加し、多数の研究発表を行った。発表題目は下掲の学会

発表の項目を参照されたい。

国内外でワークショップやシンポジウムを主催した。2014年1月15日には東京国立博物館黒田記念館において「中国典籍日本古写本の現在」と題するワークショップを、また2015年1月29日~30日には京都大学人文科学研究所において「敦煌学国際学術研究会・京都2015」を開催した。前者の内容は「中国典籍日本古写本の研究 Newsletter」第1号に掲載され、後者については、発表論文すべてが『敦煌寫本研究年報』第10号(二分冊、2016年3月)に収録されている。さらに2017年12月3日には中国上海の復旦大学において、研究代表者、分担者の全員が参加して日本所蔵中国典籍古写本に関する連続講演会を行った。これらの講演内容は要旨が Newsletter の第4号に掲載されている。なお Newsletter は

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~takata/Kak/en/index.html> で、『敦煌寫本研究年報』のバックナンバーすべては

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~takata/chu/seishahon.html> で閲覧できる。

当初、日本に所蔵される中国典籍古写本の目録公刊を目指したが、冊子体の目録としてはなお実現できていない。しかし「中国典籍日本古写本データベース」(β版)を公開できたことは、一定の成果と考えている。

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~takata/Kak/en/takatadb>

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計27件)

高田 時雄、顧野王原本玉篇水部殘卷について、『敦煌寫本研究年報』第12号、2018、165-174

NAGATA Tomoyuki、Differences between Old Manuscripts and Printed Editions of the Han-shu: With a Focus on the Text of Tun-huang Manuscript and Editorial Glosses in a Southern Sung Edition、『国際東方学会議紀要』第62冊、査読無、2017、22-40

永田 知之、京都大学人文科学研究所の前身と中国典籍日本古写本——写本の複製を中心に、『敦煌寫本研究年報』第12号、査読有、2018、147-163

永田 知之、詩序と書簡の間——唐代以前の贈答詩と古代日本文学との比較を通して、『日本中国学会報』第69集、査読有、2017、19-34

玄 幸子、内藤湖南の大英博物館所蔵敦煌

文献(佛典・佛經)調査について、『日本古写経研究所研究紀要』第三号、査読無、2018、27-42

高橋 智、朱印本『滂喜斎蔵書記』について——中国目録学研究資料、『稲畑耕一郎教授退休記念論集中国古籍文化研究』、東方書店、査読無、2018、29-35

道坂 昭廣、詩論駢文在日本的傳播序論、『駢文研究』第一輯、広西師範大学出版社、査読有、2017、135-146

高橋 智、漢籍外典古写本研究資料——斯道文庫蔵本について、『斯道文庫論集』第51輯、査読無、2017、1-32

道坂 昭廣、關於正倉院《王勃詩序》之《秋日登洪府滕王閣餞別序》、『第一屆饒宗頤與華學國際學術研討會論文集』、齊魯書社、査読有、2016、373-385

道坂 昭廣、王勃南行考、『饒學與華學』下、上海辭書出版社、査読有、2016、855-864

高橋 智、南北朝時代古鈔本『論語集解』の研究——台北故宮博物院所蔵楊守敬觀海堂本について、『藝文研究』(慶應義塾大学藝文学会)第111号、査読無、2016、37-46

永田 知之、敦煌本『文心雕龍』研究事始——初期敦煌学の一齣、『敦煌写本研究年報』第10号第2分冊、査読有、2016、95-108

高田 時雄、敦煌本玉篇の第三殘片、『敦煌寫本研究年報』第十號第一分冊、査読有、2016、89 - 94

高田 時雄、猿投神社的漢籍，《浙江大學學報》(人文社會科學版)2016年第3期、査読有、2016、1-11

道坂 昭廣、日本に傳わる『王勃集』殘卷について——その書寫の形式と「華」字缺筆が意味すること、『東方學』130輯 査読有、2015、1-17

高田 時雄、《大唐西域記》在日傳承問題，《長江學術》2015年第2期(總第46期) 査読無、2015、5-8

高田 時雄、日藏敦煌遺書の來源と眞偽問題、『敦煌寫本研究年報』第9號 査読有、2015、1-17

永田 知之、『文場秀句』補説——『敦煌秘笈』羽072と『和漢朗詠集私注』、『敦煌寫本研究年報』第9号、査読有、2015、

57-71

道坂 昭廣、日本傳存『王勃集』殘卷景印覺書、『敦煌寫本研究年報』第9號、査読有、2015、147-162

高橋 智、庄内藩致道館旧蔵漢籍について、『斯道文庫論集』第49輯、査読無、2015、49-95

玄 幸子、關於 P.2668 裡面的數種雜寫、《2013 敦煌吐魯番國際學術研討會論文集》、査読無、2014、23-33

永田 知之、陳寅恪論及敦煌文献続記——遺墨「敦煌研究」と講義「敦煌小説選読」、『敦煌写本研究年報』第8号、査読有、2014、83-104

藤井 律之、五胡十六国霸史輯佚補遺『敦煌写本研究年報』第8号、査読有、2014、105-143

高田 時雄、吐蕃時期敦煌的寫經人，《敦煌吐魯番研究》第14卷、査読有、2014、137-143

高橋 智、清・嘉慶年間(19世紀初頭)刊刻『十三經注疏』の版本について、『藝文研究』105-1(号)、査読無、2013、114-127

道坂 昭廣、正倉院藏『王勃詩序』中の「秋日登洪府滕王閣餞別序」について、『敦煌寫本研究年報』第7号、査読有、2013、149-165

玄 幸子、關西大学図書館蔵抄本『新刊監本増注司牧療馬安驥集』について、『關西大学外国語学部紀要』第10号、査読無、71-82

〔学会発表〕(計31件)

道坂 昭廣、有關日本平安時代詩序簡介——以《本朝文粹》所收詩序為中心、駢文國際學術研討會及第五屆中國駢文学會年會、2017.08.09、長沙：湖南師範大学

永田 知之、上野本《文選》小議、2017第二屆南京大學“域外漢籍研究國際學術研討會”、2017.07.02、南京大學

道坂 昭廣、關於日本傳存的《王勃集》殘卷——其書寫形式以及“華”字缺筆的意義、第二屆南京大學“域外漢籍研究國際學術研討會”、2017.07.01-02、南京大學

高田 時雄、《大唐西域記》的亞洲傳播——敦煌與日本、逢甲大學亞洲共同體講座、2017.05.04、台中：逢甲大學

玄 幸子、内藤文庫收藏の兩卷寫經介紹、
第四屆佛教文獻與文學國際研討會、
2016.11.06、浙江大學佛教文化研究中心

高田 時雄、黑水城出土的可洪《隨函錄》
殘片、第四屆佛教文獻與文學國際學術研
討會、2016.11.5、浙江大學佛教文化研
究中心

高田 時雄 京都大學總合博物館所藏敦煌
遺書簡介、“敦煌遺書與佛教研究”國際學
術研討會、2016.10.29、上海師範大學敦
煌學研究所

道坂 昭廣、日本に伝わる王勃集、中国日
語教学研究会浙皖贛分会 2016 年年会、
2016.10.22、南昌：江西師範大學

道坂 昭廣、試論駢文在日本的傳播、中国
古代散文学会第十一届年会及國際學術研
討會、2016.09.03-04、桂林：廣西師範大
學

永田 知之、敦煌“美文範例”初探——《敦
煌秘笈》羽 72b 為例、International Scholarly
Conference “The Written Legacy of
Dunhuang、2016.09.03、Institute of Oriental
Manuscripts (IOM), St. Petersburg

TAKATA Tokio, On the Khara-khoto
Fragment of Kehong's Phonetic and
Semantic Glosses of the Chinese Tripitaka,
International Scholarly Conference “The
Written Legacy of Dunhuang、2016.09.01、
Institute of Oriental Manuscripts (IOM), St.
Petersburg

玄 幸子、新羅僧慧超《往五天竺國傳》上
出現的語言數則、紀念蔣禮鴻先生誕辰 100
周年及第九屆中古漢語國際學術研討會、
2016.03.26、杭州大學

永田 知之、《唐詩類選》雜考—類書与唐
人選唐詩、第二屆東亞漢籍交流國際學術
研討會、2015.12.04、南京大學

玄 幸子、研討校訂變文資料的方法與幾個
問題——以《廬山遠公話》為例、東國大
學校中語中文学科 20 周年記念學術研
討會、2015.11.06、ソウル：東國大學校

高田 時雄、五色紙寫本在日本的流傳簡
述、絲路文明傳承與發展國際學術研
討會、2015.10.08、浙江大學

高田 時雄、“避諱改音”說的再檢討、博物
學與寫本文化：知識——信仰傳統的生成
與構造學術研討會、2015.06.20、復旦大學
歷史學系

TAKATA Tokio, Sound Change to avoid
using taboo characters, WORKSHOP
"SERINDICA: NEW TEXTS, NEW
APPROACHES", 2015.05.22, Institute of
Oriental Manuscripts, RAS, St. Petersburg

高橋 智、古典籍の流通と蔵書文化、韓国
延世大學人文研究院講演會、2015.04.03、
ソウル：延世大學

高田 時雄、敦煌本玉篇の第三斷片、敦煌
學國際學術研討會・京都 2015、2015.01.30、
京都大學人文科學研究所

玄 幸子、中國口語史研究再檢討——以敦
煌變文爲中心、敦煌學國際學術研討會・
京都 2015、2015.01.30、於京都大學人文
科學研究所

永田 知之、梵志詩与敦煌字學的教材、
Prospects for the Study of Dunhuang
Manuscripts: The Next 20 Years, 2014.09.07,
Princeton University

高田 時雄、唐宋時代譯語人的一個側面、
Prospects for the Study of Dunhuang
Manuscripts: The Next 20 Years, 2014.09.07,
Princeton University

道坂 昭廣、京都大學附屬圖書館藏《羅氏
藏書目錄》紹介、國際漢學研究之回顧與
前瞻——我的漢學之路、北京大學、
2014.09.02-09.04

TAKATA Tokio, Tibetan Dominion over
Dunhuang and the Formation of a
Tibeto-Chinese Community, ANCIENT
CENTRAL ASIAN NETWORKS.
Rethinking the Interplay of Religions, Arts
and Politics across the Tarim Basin (5th-10th
c.), 2014.06.25, Ruhr-Universität Bochum

道坂 昭廣、『王勃集』はいつ編纂された
のか——『王勃集卷 30』所収の王承烈の
手紙と「祭文」をめぐって、國際ワーク
ショップ「中國中古の學術と文獻」、
2014.02.01、京都大學人文科學研究所

高橋 智、中国絵入り本の歴史と諸問題、
リスボン新大學・慶應義塾大學共催ワー
クショップ『東と西の絵入り本』、
2014.01.28、リスボン新大學

高田 時雄 日藏敦煌遺書の來源與眞偽問
題、「敦煌遺書の現状與研究」學術講演
會、2013.12.10、臺灣中央研究院歷史語言
研究所

NAGATA Tomoyuki, “Wenchang Xiuju 文
場秀句” and “Guang Wuyuntu 廣五運圖”: A

Textbook the Heir Apparent Used during the Tang 唐 Period”, in Documents and Writing materials in East Asia Workshop, 2013.11.21, Institute for Research in Humanities, Kyoto University.

玄 幸子、關於 P2668 裡面的數種雜寫、敦煌吐魯番國際學術研討會、2013.11.17、台南：成功大學

高田 時雄、藏文書寫的漢文《願新郎・願新婦》、敦煌吐魯番國際學術研討會、2013.11.16、台南：成功大學

玄 幸子、敦煌文獻與中國口語史研究、中國敦煌吐魯番學會成立三十周年國際學術研討會、2013.08.19、北京：首都師範大學

〔図書〕(計 10 件)

高田 時雄、中華書局、《近代中國的學術與藏書》、2018、405

玄 幸子・高田 時雄(共編)、関西大学出版部、『内藤湖南敦煌遺書調査記録續編——英佛調査ノート』、2017、636

玄 幸子(主編共著)、関西大学出版部、『中国周辺地域における非典籍出土料の研究』(東西学術研究所研究叢書第 3 号、2017、199

道坂 昭廣、研文出版社、『「王勃集」と王勃文学研究』、2016、388

高橋 智、日外アソシエーツ、『海を渡ってきた漢籍——江戸の書誌学入門』、2016、221

藤井律之「魏晉南北朝」、昭和堂、富谷至・森田憲司編『中国史(上)古代 - 中世』、2016、157-211

永田 知之、京都大学学術出版会、『唐代の文学理論——「復古」と「創新」』、2015、552

玄 幸子・高田 時雄(共編)、関西大学出版部、『内藤湖南敦煌遺書調査記録』、2015、491

永田 知之(共著)、汲古書院、『詩僧皎然集注』(乾源俊主編) 2014、368

藤井 律之、京都大学学術出版会、『魏晉南朝の遷官制度』、2013、240

〔産業財産権〕

○出願状況(計 0 件)

○取得状況(計 0 件)

〔その他〕

ホームページ等

<http://www.zinbun.kyoto-u.ac.jp/~takata/Kaken/index.html>

6. 研究組織

(1)研究代表者

高田 時雄(TAKATA, Tokio)
京都大学・人文科学研究所・名誉教授
研究者番号：60150249

(2)研究分担者

玄 幸子(GEN, Yukiko)
関西大学・外国語学部・教授
研究者番号：00282963

道坂 昭廣(MICHISAKA, Akihiro)
京都大学・人間・環境学研究所・教授
研究者番号：20209795

藤井 律之(FUJII, Noriyuki)
京都大学・人文科学研究所・助教
研究者番号：50335238

田良島 哲(TARASHIMA, Satoshi)
独立行政法人国立文化財機構東京国立博物館・学芸企画部・課長
研究者番号：60370996

高橋 智(TAKAHASHI, Satoshi)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：80216720

永田 知之(NAGATA, Tomoyuki)
京都大学・人文科学研究所・准教授
研究者番号：80402808

安岡 孝一(YASUOKA, Koichi)
京都大学・人文科学研究所・教授
研究者番号：20230211

(3)連携研究者

赤尾 栄慶(AKAO Eikei)
独立行政法人国立文化財機構京都国立博物館・学芸部・上席研究員
研究者番号：20175764

落合 俊典(OCHIAI Toshinori)
国際仏教学大学院大学・仏教学研究科・教授
研究者番号：10123431

辻 正博(TSUJI Masahiro)
京都大学・大学院人間・環境学研究所・教授
研究者番号：30211379